

平成30年度小・中学校教育課程研究協議会

# 特別の教科 道徳(小・中)



福島県教育委員会

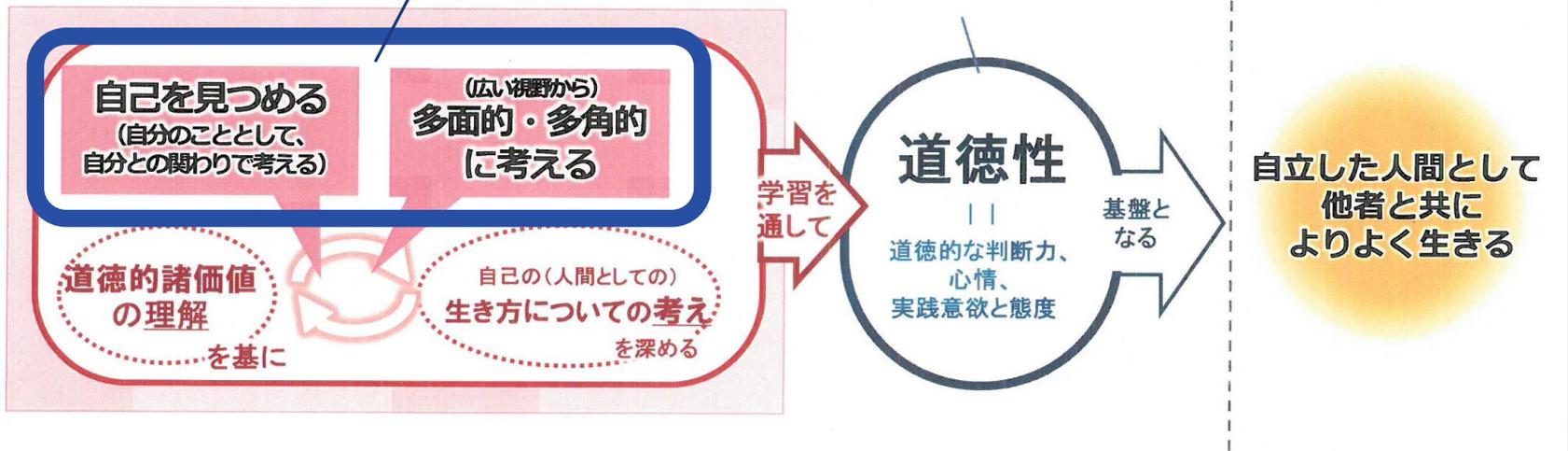
# 「特別の教科 道徳」の目標

(小(中) 学校学習指導要領第3章 特別の教科 道徳)の「第1 目標」)

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための**基盤となる道徳性**を養うため、**道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して**、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

## 2つの特質

道徳性を養うために行う**道徳科における学習**



## 道徳科改訂の趣旨

- 「要」としての基本的な考え方を今後も引き継ぎながら、学教則及び学習指導要領の一部を改正し、「特別の教科」として位置付ける。
- 現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性ある力を育成する役割が求められている。
- より発達の段階を踏まえた体系的な内容にするとともに、指導方法を多様で効果的なものとするため、指導方法の工夫等について具体的に示す。

# 改訂の要点①

## (1) 目標の明確化

- 「自己を見つめる」「多面的・多角的に考える」
- 「～道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」
- 全体計画及び指導内容の取扱いに関わる事項は、「総則」へ移行
- 「各教科等との密接な関連」「補充・深化・統合」は、「指導計画の作成と内容の取扱い」に整理

## (2) 体系性を高め指導の効果을上げるための内容の改善

- それぞれの内容に端的に表す言葉を付記。内容の視点については、対象の広がりにより順序を修正。
- いじめ問題への対応や生命を尊重する精神の育成をはじめ、児童・生徒の発達の段階や実態、環境の変化等に照らして改善。情報モラルや持続可能な発展などの現代的な課題の扱いについて充実

## 改訂の要点②

### (3) 多様な指導方法の工夫

- 多様な考え方を生かすための言語活動の充実を具体的に例示。
- 多様な方法を取り入れた指導として、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等として例示。

### (4) 多様な教材の開発とその活用

- 多面的・多角的に考えたり感動を覚えたりするような充実した教材の開発・活用について具体的に例示。
- 教材の具備する要件を3点から提示。

### (5) 評価について

- 数値などによる評価は引き続き行わない。
- 児童・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要があるとした。

# 主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント①

## (1) 道徳科の授業の「量的確保」と「質的転換」

- ① 量的確保...年間35(小1:34)時間が確実に確保されること
- ② 質的転換...指導と評価の一体化を充実させること

## (2) 各学年の内容項目に関する体系的な整理と充実

- ① 小学校の内容項目に、「個性の伸長」「相互理解、寛容」等を追加
- ② 各内容項目の「指導の要点」を熟読

※「その学年(年齢)ならでは」の発達の特性や課題の把握

※隣接する児童生徒の発達の特性や課題も押さえ、類似と相異を確認

## (3) 質の高い多様な指導方法を取り入れた授業の充実

- 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
- 問題解決的な学習
- 道徳的行為に関する体験的な学習

※ これらは独立した指導の「型」を示すわけではない。

※ 登場人物の心情理解に終始する授業や単なる生活経験の話合いに終始する授業

## 主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント②

### (4) 検定教科書の導入と地域教材の活用

- ① 教科書の使用義務を踏まえた組織・計画的な指導
- ② 副教材としての「ふくしま道徳教育資料集等の地域教材」の配当
- ③ 東日本大震災から相当年数が過ぎつつある今だからこそ、当時のエピソードを大切に後世に語り継ぎたい。

### (5) 全体計画と別葉の充実と活用

- ① 各教科等における道徳教育の指導の内容及び時期等を一覧できるもの、家庭や地域との連携等が分かるものを作成・活用
- ② 別葉作成上で大切なことは次の2点である。
  - 自校の特色や重点を教育活動全体でどのように実践していくか、分かること
  - 道徳科の授業以外の指導内容や時期が明確になること

## 移行期間における教育課程の特例及び留意点<sup>(注2)</sup>

- (1) 小学校は平成30年度(中学校は平成31年度)から全面实施
- (2) 中学校においては、平成30年度は移行措置として一部または全部を改正学習指要領に基づき指導を行うことが可能。平成31年から全面实施

### 特に注視したい点①

- (1) 質の高い多様な指導方法を取り入れ、授業をより一層充実させることが大切
  - 「自己を見つめる」「多面的・多角的に考える」という道徳科の特質に根ざした授業を具現できるかがポイント
  - 思考ツールの活用や書く活動の設定など、自分の考えや立場を明確にできるよう、多様な学習活動を工夫

## 特に注視したい点②

### (2) 年間指導計画への多様な教材への位置付け

- 年間指導計画作成の際には、教科用図書やその他、授業において用いる副読本等の中から、指導の題名を記述し、その出典名を併記
- 教科用図書以外の教材を使用するにあたっては、「学校における補助教材の適切な取扱いについて」(平成27年3月4日付け文部科学省初等中等教育局通知)など、関係する法規等の趣旨を十分に理解して適切に使用することが重要

## 特に注視したい点③

(3) 児童生徒の学習状況及び成長の様子についての評価

- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒が  
いかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人  
内評価として記述式で行うこと
- 年間や学期といった一定のまとまりの中で、児童生徒が  
学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活  
動を適切に設定すること
- 評価にあたっては、「一面的な見方から多面的・多角的な  
見方へと発展しているか」「道徳的価値の理解を自分自身  
との関わりの中で深めているか」といった点を重視すること

## 特に注視したい点④

### (4) その他

- 特に中学校では、時間割の組み方を工夫。道徳科の授業を学年で同一時間に設定するなど、学級担任ばかりでなく、学年間で連携を密にして指導できる体制をつくっていくこと
- 評価の視点や方法、評価のために集める資料などについてあらかじめ学年内、学校内で共通認識をもっておくこと